

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者
第6回養父市振興計画審議会会議録							
期 日	平成22年3月23日(火) 午後1時30分～4時40分						
場 所	養父市立養父公民館 1階他産業研修室						
出席並びに 欠席委員 出席20名 欠席5名 凡例 ○：出席 ×：欠席	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等	
	会長	荒田幹夫	○	委員	仮屋美子	×	
	副会長	大林賢一	○	委員	宇都良栄子	○	
	副会長	正垣道子	○	委員	梅井逸郎	○	
	委員	池田和揮	×	委員	村上隆司	○	
	委員	山下邦子	○	委員	田渕久和	○	
	委員	雑賀 学	○	委員	吉田明博	○	
	委員	圓山 光	○	委員	米田一之	×	
	委員	松岡 勇	○	委員	池田ビルギット	○	
	委員	田中今子	○	職員委員	満田理恵	×	
	委員	田村 譲	○	職員委員	奥藤 啓	×	
	委員	山根美智子	○	職員委員	井平 聡	○	
	委員	小松原貴美子	○	職員委員	塚本 竜	○	
	委員	藤原光子	○				
アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役						○
事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主査	田村光司	○	
	企画政策課長	阿部 稔	○	企画政策課主査	岡 和昭	×	
	企画政策課副主幹	藤野英希	○	企画政策課主査	安達洋道	×	
<p>1 開会 (大林副会長)</p> <p>2 あいさつ (荒田会長) 繰り返しになるが、3点お願いしたい。今までの総合計画にこだわらず白紙で考えていただくこと。市民に実行していただくよう、分かりやすく実行可能なものにする。実行するためには、予算が必要であり、政策と予算が相関関係にあること。養父市の現状を見て、将来はどうなるのかを見て、どんなまちにするのかを考えないと計画が形骸化する。養父市として、独自性のあるものをつくり、国県の事業を取り込み、計画を元に国県へ働きかけていくことができるようなことも考えたい。市民、職員、議会が総合計画に基づいて生活し、仕事する。市民は何ができるかを考える。議会でも、総合計画を1つの大きな柱として論じていただく。つくることが目的ではない。つくったものをやりとげることが大切である。</p> <p>3 進め方の説明 (松原アドバイザー)</p> <p>4 前回の振り返り・「総合計画の柱(案)」叩き台の説明 (松原アドバイザー) 前回、養父市がこうなったらいいと思うことを発表していただき、意見のグルーピングを行った。キーワードとして「高齢者」、「教育(生涯学習)」、「人づくり」、「活力(働く場所、経済的)」</p>							

があり、みなさんの言葉を含んで整理した。

養父市の総合計画の柱・素案（叩き台）

1. 安心して子どもを生み、育てることができる子育てのまち
2. 希望するすべての人が、働くことのできる活力あるまち
3. 子どもから高齢者まで、生涯学ぶことのできる教育のまち
4. 高齢者が安心して、いきいきと暮せる福祉のまち
5. 地域資源を活かし、多くの人が訪れる観光・交流のまち
6. 自然と共に生き、市民が共に支え合える共生のまち

この素案に対する意見として、

- ・ 言葉を決めるのか、取り組む事業を決めるのか。（市回答）施策の体系を言葉で表したい。事業はその後に出てくる話である。大きな括りの中で、これをしなければならぬというものを考えている。事業の位置づけをはっきりさせたい。
- ・ この案で進めても、まだスケジュール的にさわれる余裕はある。
- ・ 細かく分けた方が、意見は出やすい。細かく書くと分かりやすい。
- ・ 4と6の統合など、もう少し簡素化できないか。
- ・ 偏っており、物足りない。
- ・ 網羅的に出てきている。
- ・ 「葉っぱと砂でまちづくり」などの発想があってもいいのではないか。
- ・ 教育に何を期待するのか。日本は教育を任せすぎで、教育がよくなれば、将来のメリットにもつながる。
- ・ 以前の単語の柱よりよくなったが、6つは多い。
- ・ 「笑顔」を行政の目的にするのはおかしい。
- ・ 養父市全体を見てという感覚、全年齢を考えなければならない。どれも物足りない。今までの5年間とは違う、これからの5年間を表さなければならない。
- ・ 観光はあるが、定住の発想がない。U・Iターンへの対応など
- ・ 全部を網羅するのではあれば、計画自体が必要でないのではないか。安心・安全も当たり前のことである。
- ・ 独自性がほしい。ボランティアという考え方が重要である。
- ・ 「生きる力を育てるまち」を入れてほしい。
- ・ 各旧町に文化施設があり、外から来て、養父市は文化レベルが高いと思う。文化に関わっている市民が多い。
- ・ 理想はあふれているが、現実的にどうかと思う。青谿書院が観光に結びついていない。文化的なものの位置づけができていない。
- ・ 柱、政策、事業という体系となる。次の段階では、柱に政策をはめなければならないということも考えて決めなければならない。
- ・ インパクトと分かりやすさを合体したものにした。

5 ワークショップにより「総合計画の柱（案）」の検討

6 班ごとに発表

- ・ 「地域資源」という言葉が何を指すのか分からない。
- 地域資源とは、棚田や棚田の土手部分に売れる花木を育てるなどある。
- ・ 「福祉」はよく聞く。別の言葉、「安心」にしてはどうか。
- ・ 基本は自立であるが、福祉が自立を阻害しているかもしれない。
- ・ 福祉は広がっており、地域福祉ということもある。
- ・ 赤ちゃんから高齢者までを福祉と考えている。

- ・ 内容は、施策の中で意味づけをしていきたい。

7 今後の進め方について

(松原アドバイザー) 各班の発表や、委員のみなさんが大切にしたいと思う文章、言葉を含め、再度、事務局で整理したものを示してご検討いただく。

8 事務局からの連絡

審議会は、22年1月から3月までは月2回開催、22年4月以降は月1回の開催を予定していたが、しばらくは月2回の開催としていきたい。

次回 4月13日(火) 午後1時30分から八鹿公民館にて

次々回 4月27日(火) 午後1時30分から八鹿公民館にて

9 閉会

(正垣副会長)